

姫路顕栄教会

エピファニー・タイムス

【住所】〒671-1152 姫路市広畑区小松町4-36

編集責任者 牧師・司祭 ミカエル小南 晃

祝クリスマス

「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。」
(ヨハネによる福音書3：15)

クリスマス・降誕日とは、言うまでもなく、神の御子、救い主イエス・キリストがこの世にお生まれになったことをお祝いする日です。そしてこのクリスマスの祝いによって、キリスト教は「神が人となり給うた」ということを大切なメッセージとして伝えているのです。

何故、神は人となり給うたのでしょうか？それは神がこの世を愛されたからとあります。ではどうしてこの世界を愛されたのでしょうか？世界が愛に満ち、平和で、喜びに溢れていたからでしょうか？

決してそうではありません。今から二千年前のユダヤにおいて、貧しい人々は搾取に苦しみ、さらには律法を守れない罪人と神による救いを仰ぐことさえも門を閉ざされていました。そうした苦しみと悲しみに満ちた世界だからこそ、神は人々を救うために、自ら人となり給うて、この世に来られたのでした。

例えば海や川などで溺れている人を救助しようとする時、岸やボートからロープや浮き輪を投げる方法があるでしょう。しかし一番確実なのは、水に飛び込み、溺れている人を抱き上げることです。しかしこれは救助者も命の危険があります。

「神が人となり給うた」。それはまさに神が私たちに救うために、この世界に飛び込んで来て下さったということです。

またこのことは、神は私たちにどこまでも寄り添って下さることを示しています。それがクリスマスに示されている神の愛なのです。

コロナ禍での2回目のクリスマスを迎えようとしています。昨年のこの時期と比べると、ワクチン接種が進み、次第に治療薬の開発や治療方法などが確立しつつあります。

しかしこの感染症によって命を失った方、愛する家族や友人などを失った悲しみに立ち尽くしている人々、苦しい闘病生活から回復したものの後遺症に苦しむ方、また経済的な打撃を受けて、生活に困窮している人々など、この2年間で生活が全く変わってしまった人々がたくさんおられる筈です。

神はそのような人々に寄り添っておられます。そしてその神の愛に触れて、私たちの心のうちにその神を迎え入れた時に、私たちも人々に寄り添う生き方を始めることになるのです。

ともによきクリスマスを迎えましょう。

メリー・クリスマス！

クリスマス礼拝のご案内

12月24日(金)

18:00 降誕日第1聖餐式

20:00 降誕日第2聖餐式

12月25日(土)

10:30 降誕日聖餐式(主礼拝)

※昨年に続き、クリスマス祝会はありません。